希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100－8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿をお待ちしています。被災者の今困っていることも募集します。投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

東日本大震災 サポート情報

30日現在

給付・貸付

岩手、宮城、福島県は、被害を受けた中小企業向けに低金利で第三者の保証人が要らない特別融資制度を実施している。銀行、信用組合などで取り扱っている。

〈岩手県〉

中小企業災害復旧資金 罹災（りさい）証明書があるか、金融機関や保証協会が罹災状況を確認した中小企業対象。運転・設備資金として1000万円以内で、償還期間は10年以内（元本返済の猶予期間は3年以内）。利率は貸付期間3年以内が年1・7％以内、3～10年が年1・9％以内。保証料率分（年0・45～1・50％）は県が全額補給。県経営支援課☎019・629・5542。

〈宮城県〉

災害復旧対策資金 融資限度額は運転資金1000万円、利率は年1・00％以内。償還期間は10年以内（元本返済猶予2年以内）。保証料率は年0・45～1・59％。

中小企業復興特別資金 限度額は運転・設備資金8000万円で、利率は年1・5％。償還期間は15年以内（元本返済猶予3年以内）。保証料率は年0・5％。

地震で施設が被害を受けたり、売り上げが減った中小企業が対象。罹災証明書や、売上高減についてはセーフティーネット保証の認定などが必要。ともに問い合わせは県商工経営支援課☎022・211・2744。

〈福島県〉

震災対策特別資金 震災で売り上げが5％以上減るか、その見込みの中小企業者が対象。限度額は運転・設備資金8000万円で、罹災証明がある場合は利率1・5％以内、保証料率0・5％。ない場合は利率1・7％以内、保証料率0・05～1・05％（いずれも年）。融資期間は10年以内（元本返済猶予2年以内）。県経営金融課☎024・521・7291。

ボランティア

東京発学生ボランティア募集 日本財団学生ボランティアセンターは、7～8月に宮城県と岩手県で活動する学生ボランティアを募集。3回の活動を予定している。定員は各回120人前後。

活動日＝7月8～11日、15～18日、28日～8月3日。各回とも午前11時に東京都港区赤坂1の2の2の日本財団1階ロビー集合。

20歳以上が対象。参加費は1400円（ボランティア保険料）で、当日徴収する。活動内容は、学校や民家の泥かき、ごみ出し、町内清掃、がれきの撤去作業など。

寝袋▽カップラーメンや保存食品など現地で食べる食糧（朝食は用意されている）▽飲み物▽トイレットペーパー1巻▽粉じん用マスク▽長靴（踏み抜き防止の鉄板の入ったものが望ましい）▽ゴム手袋▽雨がっぱ（丈夫なもの上下）▽懐中電灯▽着替え（長袖も必須）▽作業時用の小さなポーチなど▽保険証のコピー――は各自持参。ヘルメットは借りられる。

申し込みはホームページ（http://blog.canpan.info/gakuvo/）の申し込みサイトから。定員に達し次第、締め切る。問い合わせは同センター☎03・6206・1529。

イベント

〈岩手〉

山田町サマーフェスティバル 3日11時半～14時半、山田町八幡町1の御蔵山公園。11時半から先着1000人に出店などでの飲食が無料になるチケットを配布。地ビールやワイン、日本酒、焼き肉、そばなどの店が出るほか、大道芸なども予定。問い合わせは、やまだ夢プロジェクト☎0900・5596・4365。

〈宮城〉

第2回雄勝復興市「ガレキの中から立ち上がれ雄勝！」 2日10～14時、石巻市雄勝町の雄勝支所前広場。地元の商店など約15店が出店し、海産物や乾燥ワカメ、とろろ昆布、特産の雄勝硯（すずり）などを販売する。

地元の人たちによる太鼓や仙台市フォークダンス協会による世界の民族舞踊などの披露もある。問い合わせはNPOだんだんカフェ☎03・6672・8689。

〈福島〉

ふくしま元気エネルギー映画祭 2日18～20時、福島市飯坂町東湯ノ町の旧堀切邸。19時から「ピングー」（スイス）、「こま撮りえいがこまねこ」（日本）、「やさしい出会い」（ラトビア）、「わすれられないおくりもの」（ドイツ）、「ジョアンニの自慢のパパ」（イタリア）を上映。アイリッシュハープの演奏やキャンドルマイスターによるお話も。

3日13～14時には、福島市上町の福島テルサで。女優の戸田恵子さんによる「きかんしゃトーマス」（イギリス）の生吹き替えなど6本を上映。

3日は当日先着100人。無料。問い合わせはアポロガス☎024・542・1122。

暑いので扇風機を

被災者が求める物資や人的支援情報をお知らせします。必ず事前連絡をお願いします。

ニーズ情報

■共同支援ネットワーク
（仙台市）
kyoudounet@gmail.com
http://www.clc-japan.com/jishin_b.html

扇風機をお願いします 高温と梅雨の湿気から、避難所や仮設住宅で扇風機を希望する人が増えている。使う人の気持ちをくんで、可能な限り新品を。また、引き続き夏用布団セット、タオルケットなどの寝具と、蚊取り線香▽リキッド式蚊取り器▽ノートパソコン▽洗濯用洗剤▽食器用洗剤▽食用油▽缶詰、レトルト食品（カレー、丼物）▽子ども服・下着（80～130㌢）▽自動車用ジュニアシートも提供をお願いしたい。事前にメールで連絡を。

■ふくふくプロジェクト
（福島市）☎024・533・4530
f-ssc@bz01.plala.or.jp
http://www.f-npo.jp/

保存食品求む 被災者が、避難所からアパートや仮設住宅に移って新生活を始めているが、仕事が見つからず、収入がなくて食料入手に困っている。米、みそ、缶詰、レトルト食品など保存食品の支援を。問い合わせは「花見山を守る会」事務局の高橋さん☎024・5309・8908。

■遠野まごころネット
（岩手県遠野市）☎0198・62・1001
tonomagokoro@gmail.com
http://tonomagokoro.net/

ビニールシートを募集 岩手県大槌町浪板地区の仮設住宅入居者から、「雨よけ・風よけとなるようなビニールカーテンがほしい」という要望があった。

仮設住宅は生活用具の収納スペースが十分でなく、傘立てや靴箱を玄関の外に置くことが多い。玄関外には屋根があるが、実際には雨が吹き込んで生活用品がぬれてしまうこともあるという。

娘を外で遊ばせたい

被災証明書の申請で伊達市役所を訪れた渡辺美由貴さん（左）と次女花純さん

声 被災者から

福島

高速道路の無料通行に必要な被災証明書を申請した伊達市の渡辺美由貴さん(35)「娘を仙台などこかへ車で連れていって、思い切り外で遊ばせたいです。原発事故前は庭で縄跳びをしていましたが、今は家でゲームをすることが多くなりました。通学路で放射線量が高い所があるのが心配です。線量の高い所が分かる細かいマップがあればいいですね。線量計が手に入らず、自分では測れませんし、校区ごとに1台ずつもありません。子どもたちの安全を守ることが一番大切だと思います」【高瀬浩平】

岩手

釜石市中妻町の仮設住宅で夫と暮らす鶴田好美さん(75)「大切なものが津波でたくさん流されてしまったけど、仏様だけは持って来られました。

アリの大量発生で枯れてしまったキュウリを手にする鶴田好美さん

今でも家があるような、すべてが夢だったような気がします。仮設住宅に入ってやっと落ち着きましたが、虫が多くて困ります。アリがたくさん出て、最初は家の中にも入ってきました。薬をまいたら減りましたが、育てていたキュウリは巣を作られて、駄目になってしまいました。新しくナスとキュウリの苗を買ってきたので、今度はよく育ってほしい」【円谷美晶】

ボランティア

「新たな支援」必要

行政・福祉スタッフ疲弊

大谷大文学部（京都市北区）の志藤修史准教授(47)は最近、被災地でボランティアの数が減っていることが気になって仕方ないという。

震災直後から3回にわたり、被災地に入って、ボランティア活動を続けてきた。1回目と2回目は福島県南相馬市や飯舘村で、ボランティアセンター設置の手伝いや、避難所での物資の仕分けなどに当たった。特に2回目は5月の連休と重なり、「どこに行ってもボランティアがいて、さまざまな形の支援ができていた」と振り返る。

ところが6月3日から3日間、学生24人とともに宮城県石巻市に入った際には、ボランティアがかなり少なくなっていたことに驚いた。

志藤修史 大谷大准教授

汚泥の掻き出し作業をしたが、1チーム10人が1日がかりで、1軒の家から汚泥を運び出すだけで精いっぱいだった。

志藤准教授は「まだ汚泥の搬出が必要な住宅はたくさんある。仮設住宅への入居も始まり、新たな支援が必要な地域が増えてきた」と指摘する。

震災から3カ月が過ぎ、支援者にも被災者にも変化が表れているという。「震災直後から被災者を支えてきた現地の行政や福祉施設などのスタッフに疲弊の色が濃く、休息が必要になっている」と懸念する。

「避難所には、お年寄りや心身に問題を抱える人など深刻な状況の人が取り残されつつある。人手はいくらあっても足りない。被災地に力を貸してほしい」とボランティアへの参加を強く呼び掛けている。【堀智行】

■被災地へボランティアに行くには■

各地の災害ボランティアセンター（VC）が被災地で活動するボランティアを募っている。電話で問い合わせる前に各サイトで情報の確認を。また、被災地に赴く前に居住地の社会福祉協議会でボランティア活動保険に加入することが望ましい。主なVC窓口は次の通り。

＜岩手県＞

県VCや各社協が内陸部に拠点を設け、沿岸部の被災地に送迎バスを出している。

◆県VC ☎019・637・7594 サイトでは個人参加できるボランティアバスの運行状況や各VCの募集情報を公開中

◆遠野市VC「遠野まごころネット」 ☎0198・62・1001 遠野市総合福祉センター発着便で沿岸部の被災地に毎日ボランティアを派遣。登録も随時受け付け。要事前申し込み。寝袋持参で体育館宿泊可

◆宮古市VC ☎090・4478・3984 個人、団体とも1週間前までに電話連絡を

◆陸前高田市VC ☎090・2852・9736 できるだけ2人以上で参加し、3日前までに連絡

◆大槌町社協VC ☎080・3518・8490 5人以上の団体で要事前登録。個人参加は県VCの盛岡発ボランティアバスを利用する

＜宮城県＞

各VCが県外からの個人ボランティアも受け付けている。詳細は各VCのサイトで。

◆仙台市VC ☎022・231・1326 5人以上での参加は先着50人まで、要事前申し込み

◆石巻市VC ☎0225・23・6015 10人以上の団体は要事前連絡

◆気仙沼市VC ☎080・5949・7475 10人以上の団体は3日前までに事前連絡

◆名取市VC ☎022・784・3029 団体の受け付けを6月末で終了、個人のみ登録制で受け付ける。

◆多賀城市VC ☎080・5949・7501 県内ボランティアのみ受け付ける。

◆岩沼市VC ☎080・5949・7541 8人以上の団体は要事前申し込み

◆東松島市VC ☎0225・82・9812 車中泊スペースあり。土のう袋をなるべく持参。5人以上のグループは早めに事前申し込みを。毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）定休。

◆亘理町VC ☎080・5949・7719 団体は要事前申し込み

◆山元町VC ☎080・5949・7720 要事前申し込み

◆七ヶ浜町VC ☎090・6853・4490 団体は要事前申し込み

◆南三陸町VC ☎080・2055・1066 県内外問わず団体も受け入れ中

＜福島県＞

◆県VC ☎024・522・6540

◆相馬市VC ☎0244・36・7827 7月からVCの場所を移転（電話番号は変更なし）

◆南相馬市VC ☎0244・24・1877 公式ホームページで活動内容や注意事項の確認を

◆新地町VC ☎0244・62・5577 要電話確認。毎週木曜は活動休止日。テント泊、車中泊は禁止。熱中症予防のため活動は午後3時まで

◆いわき市VC ☎0246・22・5501 団体は要事前問い合わせ

伝言板

▼フルートは岩手県大船渡市へ 三重県伊勢市の古田美保香さんのフルートは、岩手県大船渡市の葛西大志朗さん(56)に譲ります。

葛西さんの本業は楽器の修理と販売です。地震直後は部活動用のフルートやクラリネット、ホルンが曲がったため修理しました。震災で会社を解雇され、7月からはフリーで楽器修理の仕事を始めるそうです。

フルートを譲る古田さんも「学校の部活動に送りたかったので、ぴったりでした。20年吹いていないので、楽器を直せる方だと安心です」と話しました。

▼電動と折りたたみの自転車送ります 神奈川県伊勢原市の上田寛さん(67)が、いずれも中古の電動自転車（ブリヂストン製、アシスタA43L）と、折りたたみ自転車（折りたたんだ長さ80㌢×幅30㌢、重さ12㌔）各1台を、被災地に無料で送ります。電動自転車は約5年前に新品で、折りたたみ自転車は約3年前に中古で購入し、どちらもあまり乗っていません。「電動自転車には取扱説明書があります。住所、氏名、連絡先をファクス（0463・91・5867）に送ってください」

吹奏楽部に贈り物

コーチをしており「フルートを吹く部員は3人いますが楽器は2本しかなく、もう1本あればと思っていました」と喜んでいます。

葛西さんの本業は楽器の修理と販売です。地震直後は部活動用のフルートやクラリネット、ホルンが曲がったため修理しました。震災で会社を解雇され、7月からはフリーで楽器修理の仕事を始めるそうです。

フルートを譲る古田さんも「学校の部活動に送りたかったので、ぴったりでした。20年吹いていないので、楽器を直せる方だと安心です」と話しました。

▼電動と折りたたみの自転車送ります 神奈川県伊勢原市の上田寛さん(67)が、いずれも中古の電動自転車（ブリヂストン製、アシスタA43L）と、折りたたみ自転車（折りたたんだ長さ80㌢×幅30㌢、重さ12㌔）各1台を、被災地に無料で送ります。電動自転車は約5年前に新品で、折りたたみ自転車は約3年前に中古で購入し、どちらもあまり乗っていません。「電動自転車には取扱説明書があります。住所、氏名、連絡先をファクス（0463・91・5867）に送ってください」

その他

■移動郵便局

貯金の引き出し、転居届や紛失した通帳・カードの再発行など。1日の予定は次の通り（いずれも11～14時）。

〈岩手県〉

山田町立大沢小▽大槌郵便局構内

〈宮城県〉

女川町総合体育館▽南三陸町総合体育館ベイサイドアリーナ

ミニニュース

■身元確認システム、宮城と福島でも NTTPCコミュニケーションズは30日、東日本大震災により岩手県内で遺体で見つかり、身元が分かっていない人の情報をインターネット上で調べられる「身元確認システム」について、1日から宮城、福島両県の身元不明者も検索できるようにすると発表した。3県警の検視記録を集約し、計約1750件の情報を登録。利用者は性別や身長、髪の色や所持品などの特徴を入力して検索することができる。

システムは5月下旬、岩手を対象に運用開始していた。ホームページのアドレスはhttp://tsumugi.on.arena.ne.jp/search/

■稲盛財団がボランティア助成制度 公益財団法人「稲盛財団」（京都市）は、被災地を支援するボランティア団体・グループを資金面で援助する「東日本大震災復興ボランティア助成制度」を創設した。

被災者の心のケア、高齢世帯への訪問活動、子どもたちの学び・遊びの支援など、復興に向けた支援活動をするNPO、ボランティア団体、大学、学生・社会人団体が対象。支援費用の一部を内容に応じて助成する。20団体程度に50万円以内、15団体程度に100万円以内を助成する。

財団ホームページから応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入して郵送、ファクス、メールのいずれかで応募。

送り先は〒600－8411 京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620、稲盛財団「東日本大震災復興ボランティア助成」係。☎075・353・7272、ファクス075・353・7270。メールアドレスはvolunteer@inamori-f.or.jp。15日必着。

◆電◆話◆帳◆

※平日のみ

●行方不明者・震災関連相談ダイヤル
岩手県警 0120・801・471（9～17時）
宮城県警 022・221・2000（10～16時）※
福島県警 024・522・2151（内線3024）（8時半～17時15分）※

●医療
文部科学省健康相談ホットライン・放射線関連 0120・755・199（9～18時）
放射線医学総合研究所相談窓口 043・290・4003（9～17時）

●生活支援
日弁連電話相談 0120・366・556（10～15時）※
岩手弁護士会 0120・755・745（月～土13～16時）
仙台弁護士会 0120・216・151（10～19時）※
福島県弁護士会 024・534・1211（14～16時）※
あしなが育英会 被災者専用 0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
チャイルドライン 0120・99・7777（月～土16～21時、18歳までの子ども向け）
震災関連の悪質商法110番 0120・214・888（10～16時）

●省庁
公営住宅等情報センター 0120・297・722（9～18時。全国の公営住宅などを紹介）
住宅の補修・再建（国交省） 0120・330・712（月～土）
行政相談（東北管区行政評価局）0120・511・556
金融相談（東北財務局） 022・721・7078※
中小企業相談（経産省） 0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省） 0120・355・567（平日8時半～20時半、土日祝日は18時15分まで）
年金の相談（日本年金機構）0120・707・118※

●金融・保険
預金口座照会センター（全国銀行協会） 0120・751・557（9～17時）※
災害地域生保契約照会センター（生保協会） 0120・001・731（9～17時）※
そんがいほけん相談室（日本損保協会） 0120・107・808（9～18時）※
携帯・PHSからは03・3255・1306※

●移転した役所
＜岩手県＞
陸前高田市 高田町鳴石 0192・54・2111
釜石市 シープラザ釜石 0193・22・8253
大槌町 大槌小学校 0193・42・2111
＜宮城県＞
女川町 女川第二小学校 0225・54・3131
南三陸町 町総合体育館ベイサイドアリーナ南側 0226・46・2600
＜福島県＞
広野町 FDKモジュールシステムテクノロジーいわき工場 0246・43・1331
楢葉町 会津美里町本郷庁舎0242・56・2155
富岡町 郡山・ビッグパレット 0120・336・466
川内村 郡山・ビッグパレット 0120・38・2119
大熊町 会津若松市追手町第2庁舎 0242・26・3844
双葉町 旧埼玉県立騎西高校0480・73・6880
浪江町（二本松市） 県男女共生センター コールセンター03・5638・5055
飯舘村 福島市飯野支所内024・562・4200
葛尾村 旧法務局会津坂下出張所 0242・83・0271

三陸物語

Sanriku Monogatari

視覚障害の兄妹 中村亮さん 三三子さん ❹

気に留めてくれた人がいた

障害を抱えた人とそうでない人が共に暮らす時、両者の間に壁をつくるもの。それは障害者の側の遠慮と、健常者の側の「障害」に対する想像力の欠如だ。あの大津波の直後は、被災者たちみんなが自分のことで頭がいっぱいだった。

岩手県釜石市の鍼灸師、中村亮さん(57)が苦労したトイレの話を続ける。隣組の女性が寺を出た後、亮さんは弱視の妹三三子さん(55)の手引きでトイレに行き、停電下の夜が来る前に小用を済ますように心掛けた。大のほうは、貯水槽に水があった最初の数日は、くみ置きの水をバケツで流したが、目の見えない亮さんは次の利用者に流してもらった。

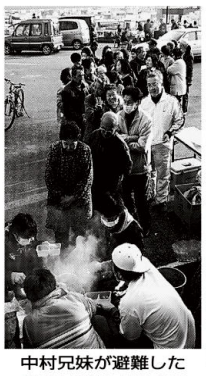
しかし水がなくなり、使用済みの紙を備え付けのビニール袋に捨てるようになって、頭を抱えた。置き場所は時に位置を変え、袋の口が開いているとは知らずに手を入れそうになった。結果、それがストレスになり便秘が始まる。

食事にもこと欠いた。2日目に本堂で炊き出しのおにぎりが配給になった時は、食べそびれた。電気の消えた寺の中は昼でも薄暗く、弱視の三三子さん共々本堂への行き方が分からなかった。「トイレはこっちですよ」。男性の声が聞こえたのは3、4日後。避難生活も少し落ち着いて、同室の人たちと言葉を交わすようになってからだ。「炊き出し持ってきてあげる」という女性も現れた。目が不自由なことに思いが至る人の登場だった。「オレたちを気に留めてくれた人の存在に助けられました。避難で手引きしてくれた女性や避難所で声を掛けてくれた人がそうです」。中村兄妹の感慨だ。

とはいえ便秘が続き、亮さんは食欲をなくして体調を崩す。避難生活9日目。今度は下痢が続き、38度の熱で寝込んでしまった。【萩尾信也】

◇

「三陸物語」は火～土曜日に掲載します。


中村兄妹が避難した岩手県釜石市の寺の炊き出し＝菊地信平さん提供